

メーリングリスト[kaikou2]における議論

No.	月/日	発信者	頁	内容
858	2024/12/17	事務局（上野貴史）	1	【機密性 2 情報】（鈴木委員より）久保野家文書について：補足
859	2024/12/17	佐竹委員	1	『手鏡』の長さの基準の問題について
861	2024/12/17	汐見委員	2	Re: [chouki(2748)] 『手鏡』の長さの基準の問題について

[kaikou2(858)] 【機密性 2 情報】（鈴木委員より）久保野家文書について：補足
投稿：事務局（上野貴史）

鈴木委員より昨日の合同会でのご発言についての補足を
メーリングリストへ転送してほしい旨ご依頼がありましたので事務局より転送させていただきます。

↓鈴木委員より↓

昨日の会議の際、宝永地震の隆起量推定において、久保野家文書と万変記の双方からの推定値の重み付けを問われ、前者はゼロと発言したことについて補足します。久保野家文書にある「宝永地震以前の深さ」に関する文章内の値は信用できます。しかし久保野家文書内にある「室戸港沿革史」の絵図の水深は、1679 年時点とする説と 1845 年とする説とがあるため、これに基づく議論はできないので重みゼロという意見をしました。
幅を持たせるということは 1679 年説をとることを意味します。その可能性もあるのだからそれをある程度考慮すべきでその重みをどうするかということがもし問われていたとすると、それは久保野家文書と万変記の重み云々という話ではないように思います。私の理解に勘違いがあるようでしたらご指摘ください。

鈴木康弘

[kaikou2(859)] 『手鏡』の長さの基準の問題について
投稿：佐竹委員

佐竹です。昨日（12 月 16 日）は活発なご議論、ありがとうございました。

昨日の会議で出された質問
橋本ほか（2024b, p.317）の 「これは、『手鏡』の表紙裏に書かれている情報で、慎重な扱いを要する問題である。」
について、欠席された加納委員に伺ったところ、以下のような回答でした。

確かに、橋本ほか（2024a）の図 10 には その写真が掲載されていました。図（写真）やキャプションからは「表紙裏」であることはわかりませんが、本文にはそのように書いてありました。

これはひとつめの論文（橋本・他，2024，p.399）の「4. 6 長さの基準の問題」に書いていることと対応していて、そのまま、スケールの問題に関する記述のことになります。当時は用途によって長さの基準が違っており、室津湊の測深でもどのような長さの基準で測定されたかは不明であることを考慮する必要があるのではないかと
いう主張です。

4. 6 長さの基準の問題
『手鏡』（資料(3)）にはもう一つ重要な情報が記されている。『手鏡』の表紙裏には、図 10 のような記載がある。
一 普請方之竿
六尺五寸ヲ六尺ニモル
一 地方之竿
六尺三寸ヲ五尺ニモル
（以下略）

ひとつめの論文（橋本・他，2024，p.399）の「5. 2 計測誤差の見積もり」に書いている「不確定要素が大きい
が、目安として 0.3~0.5 m 程度の誤差が得られる。」も参考になるかもしれません。

[kaikou2(861)] Re: [chouki(2748)] 『手鏡』の長さの基準の問題について

投稿：汐見委員

情報有り難うございます。確かに、写真とその解説が記載されておりました。

改めてこの部分についての議論を読み、もう1点、配布資料には書かれていなかった、中田・島崎（2024）の一節が気になりました。

曰く、

「手鏡」に換算率が記されており、適宜換算したと思われる。

ここについては、橋本・他（2024b）でも特に言及されていませんが、一般的にこういった普請の報告では、換算した（より正しいと思われる）数値が載るものなののでしょうか？生データを載せて、ユーザーが換算せよとなるものなののでしょうか？

いずれにせよ換算したかどうかの情報がなく、中田・島崎（2024）でも、「当然」、「思われる」とかなり弱いトーンでの記述となっていることから、私は、現時点では「普請方之竿」と「地方之竿」の重みを1：1にするしかないのかな、と考えています。

以上、取り急ぎ。
